

中国経済の落ち込みがウクライナショックを緩和した

2023年2月1日

エコノミスト

多摩大学客員教授

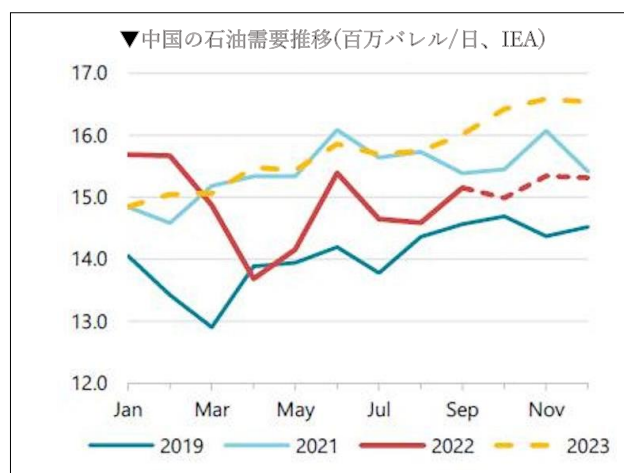
結城 隆

2022年はロシアのウクライナ侵攻が起こり、これに対し欧米およびその同盟国はロシアに対し空前の規模の経済制裁を課した。これによって石油・天然ガス価格や食糧価格が高騰し、欧米諸国は記録的なインフレに見舞われ、FRB や ECB はゼロ金利政策をかなぐり捨てアグレッシブな利上げに走った。

昨年の中国経済が平年並みのパフォーマンスだったなら、上記の状況はさらに深刻なものとなった可能性がある。

まず、エネルギーから見る。中国の2022年の石油需要は日量平均で39万バレル減少した。この減少幅は1990年以来の大きなものだった。中国の石油消費量は日量約12百万バレル。アメリカの約2千万バレルについて世界2位である。世界の消費シェアは13%。中国の石油需要が増加していたならば、需給のひっ迫はさらに深刻になり、価格上昇ももっと激しいものとなった可能性がある。2023年、ロシアを含むOPEC+の原油産出量は日量87万バレル減少し、これをアメリカ、ノルウエー、カナダ、ブラジルの増産でカバーし、産出量はほぼ2022年並みになるというのがIEAの予測である。一方、中国経済が第二四半期以降回復した場合、石油需要は日量51万バレル増加すると見込まれている。前年に比べると百万バレル近い増加となる。ロシアのウラル産原油の産量については予測困難だが、中国の石油需要が今後高まってくれば、今年後半、原油需給がひっ迫し、価格が再び高騰する可能性がある(i)。

次に食糧。2022年はパキスタンの大洪水や欧州の干ばつなど過酷な気候変動が各地で発生した。これに加え、「ヨーロッパのパン籠」とも言われるウクライナからの小麦輸出がロシアによるオデーサ港の封鎖により一時停止した。世界的な食糧危機が懸念された。中国も昨年6月に広東省の大雨、8月には揚子江流域が深刻な高温と干ばつに見舞われた。後者については水不足により三峡ダムが干上がる懸念も生じたほどだ。江西省最大の湖である鄱陽湖も干上がった。揚子江流域でのコメの生産は中国の48%を



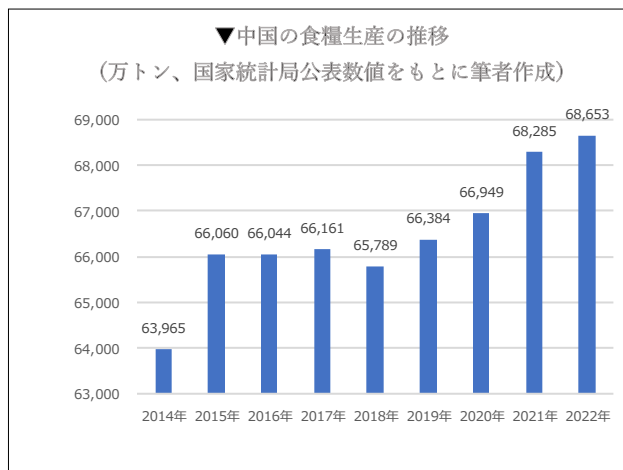
占める。心配されたのが米の生産である。政府は最悪の場合収量が10%前後減少し、輸入割当量の5百万トンの2倍に相当する1千万トンの輸入が必要と予想したようだ。世界のコメ輸出量は概ね5千万トン前後なので、これだけの新規需要が発生すれば価格の高騰は必至である。インドは昨年、米の輸出を禁止した。ちなみに、中国は世界最大のコメの消費国で、年間消費量は日本の20倍の154百万トンに上る。災害対策を担当する応急管理部はこの事態を迎えるにあたり、干ばつの被害が予想される地域で臨時のため池を作り、あるいは新たな井戸を掘削する

などして水の確保に努めた。この結果、昨年の食糧生産は前年を5%上回る6億8,653万トンに達した(ii)。中国の一人当たり食糧生産量は485kgとのことだ。また、米の備蓄は1億トンを若干超えるレベルを維持している。国民が飢える心配はまずないし、食糧安全保障も一定程度確保されていると言える。

最後にインフレが抑制されている。2022年、消費者物価指数の上昇率は2%に留まった。生産者価格指数は4%の上昇なので、生産および流通段階でこの差額は吸収された格好となっている。世界最大の貿易シェアを持つ中国において欧米のようなインフレが発生すれば、その影響は極めて大きい。エネルギー価格の上昇に対し、中国は中東産原油に比べ3割以上廉価なロシア産原油の輸入を拡大した。半導体不足は、汎用半導体については自国内での増産により凌いだようだ。また、消費が低迷するなかで、そうそう価格は引き上げられるものではない。鉄鋼、セメントなどエネルギー消費型の産業は、不動産市況の低迷により建設資材の需要が大幅に落ち込んだことから、需給が緩み、販売価格も軟化した。ちなみに、物価が落ち着いていることや、消費需要が低迷していることもあって、人民銀行は金融緩和政策を継続している。世界的にインフレが高進した2022年、利下げを行ったのは、中国、ロシア、トルコである。人民元はアメリカの利上げにより下落したものの、人民銀行の巧妙な窓口指導(日々の変動幅を状況に応じ、広げたり縮めたりする)や、国有銀行を通じた間接的な介入などを組み合わせることによりボラティリティを抑え込んでいる(iii)。

2022年の11月まで続いたゼロコロナ政策により、中国経済の成長は大きくスローダウンした。一方で、食糧安全保障の確保や物価安定といった民生分野での「穏」も実現されている。こうした中国経済のパフォーマンスが世界経済に少なからず貢献したということも認識しておかなければならないと思う。無論、その逆もあり得るが。

今年の中国の経済は、第一四半期がゼロコロナ政策解除後の感染爆発により2%台と低調に推移するが、集団免疫の獲得が期待できる年後半から回復軌道に乗ると予想される。今年の成長目標は、5%以上となる見込みだが、実現の可能性は十分あると見る。



ⁱ Global oil demand set to reach record high as China reopens, IEA says Russian supplies and Beijing's policies represent 'two wild cards' of 2023 The IEA forecast that the 'well-supplied' global oil market at the start of the year could 'quickly tighten' as western sanctions against Russian products take full effect January 18, 2023, FT

ⁱⁱ 大丰收：粮食增产 74 亿斤！全年 1.37 万亿斤！疫情及南方高温干旱无碍总产量再创历史新高 2022-12-12 每日经济新闻、China's Drought Unlikely to Unsettle Global Rice Markets Wed 07 Sep, 2022 Fitch Ratings-Hong Kong/Beijing

ⁱⁱⁱ China's new renminbi tactics leave traders guessing People's Bank of China uses 'invisible reserves' to manage currency fluctuations January 6, 2023, FT

御願ひ

本レポートのすべての絵と文の転載はご遠慮ください。無許可の転載、複製、転用等は法律により罰せられます